

令和2年度 学校評価書

学校名 北海道石狩翔陽高等学校

学校関係者  
学校評議員  
5名

1 学校教育目標

自主・自律の心を求め、未来に翔く力を

2 年度の重点目標

- (1) 自己を見つめ、目標に向かって、自ら挑戦する態度と能力の育成
- (2) 自己を見つけ、他を思いやる心や感動する心の育成
- (3) 自己を高め、健康で逞しく生きる力の育成

3 経営方針

- (1) 生徒が主体的に学ぶ授業を実践し、思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- (2) 生徒・保護者と教職員の信頼関係を強め、他者との共生意識や自他の生命を大切にすることを意識し、態度を備えた生徒の育成に努める。
- (3) 地域社会や関係機関等との緊密な連携を図るとともに、情報発信を充実させ地域の期待に応える魅力ある学校づくりに努める。
- (4) 教育公務員としての強い自覚をもつとともに、服務規律と法令遵守を徹底し、信頼される学校づくりに努める。
- (5) 生徒・教員の健康はもとより、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮し、働き方改革の視点を盛り込んだ部活動運営を推進する。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価	改善・充実の方策	学校関係者評価		
			達成状況		(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ	
教育活動	I 学習指導	①授業評価の実施と分析	①授業評価を実施・分析し、主体的に学ぶ意欲を喚起する視点での授業改善が図られたか。	B	生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を組み立てて、授業評価の充実と授業づくりに努めていく。	A	A
		②教科内授業研究による主体的に学ぶ授業の実践	②教科内授業研究を実施し、基礎・基本の定着を図る視点での授業改善が図られたか。	B	課題研究の手法を活かした授業方法の改善と観点別学習評価の更なる推進。基礎力診断テスト等の結果のフィードバック。		
		③基礎・基本の定着	③生徒の実態把握を進め、補習等を計画的に実施するなど、基礎-基本の定着が図られたか。	B	教員の指導力を高め、個別指導の充実と学力テスト等を活用したつまずき箇所の発見及び自覚を促す支援的な学習指導。		
		④家庭学習の習慣化	④学習課題の工夫により、家庭学習の充実が図られたか。	C	週末課題の工夫、トライバースィックの取組の充実させ、学習意欲を高めていく。		
		⑤授業規律の確立	⑤ベル席、授業準備、授業への集中など授業に積極的に取り組もうとする姿勢が見られたか。	B	意欲を喚起する授業の展開と組織的な授業管理。		
	学校関係者の意見		・ 日常の学習活動も外部発信できると良い。 ・ 家庭学習の目的が何なのかははっきりさせるべきではないか。				
	II 生徒指導	①生徒が抱える諸問題の早期発見と生徒一人ひとりに応じた指導の充実	①生徒理解の深化を図るため、個人面談を計画的に実施するなど、生徒の人格を尊重した心で迫る指導がなされたか。	B	生徒一人ひとりの不安や悩みに目を向け、共通的理解を持って、生徒理解を深める。生徒理解研修会の充実と共有による共通理解の推進。	A	A
		②挨拶の励行やマナー指導による社会性・寛容性の育成	②挨拶やマナー指導に関して全教職員の共通な理解・指導により、社会性・寛容性を育成できたか。	B	社会から求められる資質を育むことを目的とした指導理由の丁寧な説明と、全教職員による組織的な生徒指導の推進。		
		③校内外の規律遵守の徹底とSNSに関する指導の充実	③生活規律の徹底により、規律遵守の意識の高揚が図られたか。また、SNSに関する諸課題について理解を深めさせ、節度ある利用がなされたか。	B	関係各機関との連携及び、交通安全・防犯教室、SNS活用に係る主体的な生徒研修会の充実。		
	学校関係者の意見		・ 挨拶やマナーは素晴らしい学校・生徒と感じます。指導のための指導とならぬよう、生徒と向き合う姿勢を大事にして欲しい。				
III 進路指導	①系統的・計画的な進路指導による進路意識の高揚	①進路指導が系統的・計画的に実施されたか。また、進路意識の高揚が図られたか。	B	各種進路事業の質の充実。3年間をとらして育む力と到達点を明示したキャリア教育全体計画の効果的な改善及び全組織での共有。	A	A	
	②進路学習、ガイダンス機能の充実	②情報や資料の収集・整理とその効果的活用・提供が図られたか。また、自主的な進路選択がなされたか。	B	進路実現のために必要な総合的な実践力を育成するため、ICT機器を活用しての積極的な進路情報の収集及び校外研修会への参加促進。			
	③年次・分掌・教科の連携した指導体制の強化	③年次・分掌・教科の連携が十分になされ、共通理解に基づく指導がなされたか。	B	進路に係る各種委員会の積極的な実施と円滑な情報の還流。教科指導も含めたキャリア教育全体計画への改善。			
学校関係者の意見		・ 教職インターンシップなど新たな試みも、今後も継続させていただきたい。 ・ もう少し国公立大学への進学者が増えたとさらに幅が広がる。					
IV 健康・安全指導	①適切な生徒理解と教育相談体制の充実	①悩みを抱えた生徒に、適切な教育相談や支援がなされたか。また、SCとの連携が図られたか。	B	生徒の困り感の把握及び個別相談の充実とSC・専門機関等との連携。	A	A	
	②学校安全指導と健康管理意識の向上	②学校安全指導が徹底できたか。また、健康管理や規則正しい生活を送るための指導が適切になされたか。	B	自己健康管理に係る啓発。教科指導と連携した学校安全指導の充実。			
	③特別支援教育体制の充実	③特別な支援を必要とする生徒の実態把握と情報共有及び生徒支援教育委員会と教務部との連携が図られたか。	B	生徒支援委員会の役割の明確化と連携体制づくり。			
学校関係者の意見		・ スクールカウンセラーの活用等、真摯な対応が感じられます。					
I 信頼される学校づくり	①地域の教育力の積極的活用	①ボランティア活動やインターンシップなど、体験的な教育活動を地域と連携して推進できたか。	B	コロナ禍のため計画していたものが例年より実施できなかった。今後も感染予防対策を講じて、教科、部活動、分掌等すべての組織における地域教育資源の活用促進。	A	A	
	②学校評価結果に基づいた改善・充実の活用	②学校評価結果等に基づき、改善の取組を実施できたか。	B	PDCAが継続的に循環する学校評価システムへの改訂とその定着。評価基準の客観化。			
	③保護者や地域の理解と協力を得た教育活動の充実	③保護者や地域の協力・支援が教育活動に生かされたか。	B	コロナウイルス感染症予防対策を講じた上でのPTA、同窓会、近隣教育機関、関係機関、地域住民への理解促進と積極的な協力依頼。			
	④高大連携の推進・充実	④高大連携が円滑に実施され、事業の充実が図られたか。	B	新たに北翔大学と高大連携協定を締結したことにより、連携事業を行える内容の具体的な検討。			
	学校関係者の意見		・ 地域との連携にも力を入れていると感じる。さらに保護者の活用を望む。 ・ インターンシップや高大連携に積極的に取り組んでいるのが素晴らしい。 ・ ホームページや「炭戸川」などの通信で学校の様子を発信していることがわかります。				
II 組織運営	①「すべては子どもたちのために」の思いの共有	①「生徒のために何ができるか」という視点に立つ教育活動が実践できたか。	B	生徒・保護者・地域の願いと要望を反映した学校経営	A	A	
	②学校経営方針の理解と各分掌・年次の緊密な連携	②学校課題とその解決策が共有化され協働体制が確立されたか。	B	経営方針に基づく学校評価への改善とフィードバックの推進			
	③管理職と教職員、教職員相互の信頼関係の強化	③企画ヒヤリングにより計画性が担保されるとともに、部長主任会議が十分に機能したか。	B	日常的な協議・相談機会の充実と、会議の効率化および事業具体化を見越した協働体制の構築			
	④各分掌・委員会の業務内容の見直しとスリム化	④各分掌・委員会の業務が組織的かつ効率的に推進されたか。	B	課題を共有にした上で、分掌部会、各種委員会の活性化。			
	⑤服務規律の遵守と私費会計の適切な事務処理	⑤体罰・交通事故・金銭事故等の防止が図られたか。また、私費会計が適正に会計処理されたか。	A	継続的な研修実施による啓発と更なる点検体制の確立。			
	⑥部活動休養日の徹底	⑥年間を通して部活動休養日を計画的に実施できたか。	A	出退勤システムの導入による勤務時間の客観的な把握と効率的な部活動運営。			
学校関係者の意見		・ 管理職と教職員の連携をこれからも大事にしてください。					
III 教職員の資質向上	①新学習指導要領に関する校内研修の実施	①新学習指導要領検討委員会が十分機能したか。また、新学習指導要領に関する校内研修会を実施できたか。	B	新学習指導要領の趣旨を生かした新カリ編成コンセプトの確認と教科における観点別学習評価の確認。	A	A	
	②ALの視点に立った指導方法に関する校内研修の実施	②ALなどの指導方法における校内研修の実施により、ALの理解の深化、授業力の向上、授業改善に繋がったか。	B	総合的な探求の時間および課題研究で実践している主体的、対話的な深い学びの視点からの授業改善に係る研修を生かした教科授業の改善の推進。			
	③危機管理に関する校内研修の実施	③危機管理等の充実に向けた校内研修の実施により、危機管理能力が高まるとともに意識が高揚したか。	B	危機を未然防止するための共通理解と生徒が主体的に判断し命を守る行動をとることのできる能力を育てる危機対応教育の実施。			
学校関係者の意見		・ これからも総合学科の中心校として、教員一人ひとりが自覚を持って教育実践を行って欲しい。					